

優先順位	改善項目No		改善目標	改善に向けた計画内容	期間	評価(平成18年6月3日現在)
	自己	外部				
1	1	1	全職員が基本理念の内容を理解する	これまでの理念を基本におき、入居者や家族、職員にとって身近な言葉で各ユニット毎にモットーを掲げ皆で共有する	6ヶ月	現在、職員各自で考え、それをまとめてユニットにふさわしいモットーづくりの途中である。これを毎朝の申し送りで確認する予定
2	20	15	アセスメントの充実、具体的な介護計画を作成する	アセスメントシートを変更、より細かな情報収集ができるようにする。課題は1～2項目までに限定し内容も具体的にわかりやすい表現にする	その都度	シートの変更で、これまでより状態像がつかめてきた。介護計画書も、わかりやすく、見やすく改善した
3	21	16	担当制を取り入れることで介護計画を全職員で作成する	介護計画の重要性を皆で理解できるよう学習会の開催。担当制にして全員で作成する	その都度	担当制をとりいれ計画作成担当者で相談し原案を作成することにより入居者の望みを把握でき内容的にも職員間で共有しやすくなった
4	23	18	入居者の希望や変化にずれのない計画作成をする	毎月見直し状態の把握と実施できているかの確認をする	短期目標終了前、状態変化時	評価期間を3ヶ月としているが、そのなかで、1ヶ月毎の評価をおこなっている
5	26	12	チームケアのための会議	ケアカンファレンスは、問題発生時に随時おこなう。会議に参加できない職員への伝達を申し送りで確実にする	その都度	申し送り時にミニカンファレンスを開くことにより問題を先のぼしにすることがなくなってきた
6	35	27	一人で行えることへの配慮	できることできないことの見極めができ必要な援助をする。待つことの大切さをしる。	その都度	下膳等も補助車の利用でしようとする気持ちを大切に。急須も持ちやすい器を用意したことで入居者同志お茶をくんだり関係ができてきた。
7	76	45	身体機能の維持	散歩や買い物などを毎日とりいれ、あくまでも楽しみが主体の活動により身体機能を維持していく	その都度	職員の声かけで散歩にでかけていた人達が自発的に戸外にでかけその後は職員が介助に走る光景をみる
8	90	51	ホームに閉じこもらない生活の支援	環境をいかし花、野菜畑を作る。入居者の声で外出希望があれば、すぐでかける。	その都度	花などを植え、戸外に誘いやすい環境に変えつつある。他のGHの人達を焼き芋に呼び交流の輪をひろげている
9	115	62	注意の必要な物品の管理・保管	保管庫は来年度予算で購入。物品はしまい忘れのないよう運出、夜勤者が確認する	その都度	保管庫も整い後始末は運出の役割夜勤者の確認で二重のチェックをしている
10	113	61	ホーム内の衛生管理	生ゴミは雨天以外は毎日捨てるまな板やランチョンマットは美化委員の点検で随時行う		まな板、ランチョンマットを清潔に保つことに、職員が気がつくようになった。生ゴミについては男性入居者の役割として職員と行う
11	128	69	市町村との関わり	見学等の要望には応じる。自ホーム単独でなく、地域のGHとも協力して市町村との話し合いの機会をもつ	その都度	月1回の割合で地域のGHと話し合いの場をもうけている。
12	83	48	服薬の支援	投薬に変更があれば、申し送りや申し送りノートで確認し、投薬情報で副作用等の確認をする	その都度	申し送り時に口頭で伝え、申し送りノートで再確認できるよう改善し確認する習慣がついた
13	5	4	「認知症であっても、地域のなかで、普通に暮らせる」ということを地域に伝えていけるようにする	現在のパンフレットを、改めGHの役割や生活を伝えていける内容に変え、公民館、商店、郵便局などに置く		検討中
14	131	70	地域の人達との交流の促進	家族、友人が訪れやすい雰囲気をつくる。スーパーのみの買い物は、店の人との交流が少ないので、個人店へ	その都度	秋祭りに愛護会に参加して地域の子供達とふれあう機会も予定している。併設の施設に面会の人がGHを訪ずれ詩吟を披露してくれた
15	133	71	入居者の生活拡充のための地域資源の利用	母体が老人保健施設で協力をえているが、でいりの魚屋さん、喫茶店も利用し協力をよびかける	その都度	毎日、散歩にこられる人達と顔見知りになり、協力を得る機会もあった
16	74	77	定期健康診断の支援	入居者の全員が受診の際、各種の検査をうけている。月1回は往診医に健康相談をしている	その都度	家族より十分な理解をえている
17	44	31	利用者一人ひとりにあわせた調理方法、盛りつけの工夫	入居者の食事の状態を把握し、その人に合わせた、調理方法の工夫をする。入居者の声も大切に	その都度	漬物の切り方でも、人によって違いがあり、入居者の声を聴きとることの大切さを知ったとることの大切さを知った
18	47	33	食事を楽しむことのできる支援	食事中の会話の楽しみ方には個人差があり、いちがいに言えない。食後のお茶やデザートを食べながらの団らん目目向ける	その都度	これまで、食事をおえるときすぐ席を立つ方もいたがデザートを食後に出すことで、食事時間も長くなり、ゆっくり食事する方にとっても、良い影響がでて会話も増えている